

平成30年度

# 事業報告書

自 平成30年 1月 1日

至 平成30年12月31日

公益財団法人 競走馬理化学研究所

# 平成 30 年度事業報告

## I 概要

わが国の景気は緩やかに回復しているとされる中、中央競馬・地方競馬ともにその売り上げは、30年度も堅調に推移した。

こうした状況の下、競走馬理化学研究所は、確かな技術と信頼性に基づく検査を実施するとともに、競馬の国際化に伴った検査の高度化を推進する研究を実施し、わが国の競馬の公正確保に不可欠な機関としての役割を果たした。

薬物検査事業においては、競馬主催者、飼料業者等からの依頼に応じて、競走馬、騎手、飼料等を対象とする検査を実施した。その中で、禁止薬物の陽性を受けた再発防止及び原因究明のための薬物検査及び飼料等検査が増加した。

また、競走馬薬物検査の品質保証については、ISO/IEC 17025 認定の維持及び範囲拡大に取り組んだ。

DNA 型検査事業においては、血統登録機関等からの依頼に応じて、軽種馬の親子判定及び個体識別検査等を実施した。

研究事業においては、日本中央競馬会から委託された「治療薬物の休薬期間の設定に関する研究」、「競走馬の呼吸器疾患における遺伝学的調査・研究」等の 4 テーマを実施した。

一般化学分析事業においては、馬伝染性子宮炎の検査、競走馬の遺伝子検査、治療薬物の血中濃度の測定等を実施した。

「薬物検査体制の国際標準化事業」及び「競走馬の遺伝子ドーピング及び遺伝的健全性対策事業」においては、日本中央競馬会からの助成を受け、分析機器の導入や検査法の開発研究を実施した。特に、「薬物検査体制の国際標準化事業」では、最新の分析技術を応用した薬物検査法を確立し、国際標準を満たす薬物検査機関としての指定を得るために、国際馬術連盟 (FEI) へ申請を行うとともに、国際競馬統括機関連盟 (IFHA) への申請準備を進めた。

## II 事業内容

### 1 薬物検査事業

#### 1) 競走馬の薬物検査

##### (1) 禁止薬物の検査（レース分）

検査件数 44,452 件

陽性件数 6 件

##### 中央競馬

競馬場	検査件数	競馬場	検査件数	競馬場	検査件数
札幌	432	中山	1,477	阪神	1,514
函館	432	東京	1,615	小倉	721
福島	720	中京	938	小計	10,369
新潟	936	京都	1,584	再検査	0
				計	10,369

##### 地方競馬

競馬場	検査件数	競馬場	検査件数	競馬場	検査件数
帯広	3,242	大井	3,250	姫路	0
門別	2,025	川崎	1,979	高知	3,002
盛岡	1,588	金沢	2,075	佐賀	2,816
水沢	1,576	笠松	2,062	小計	34,077
浦和	1,675	名古屋	2,758	再検査	6
船橋	1,774	園田	4,255	計	34,083

##### (2) 規制薬物の検査（レース分）

検査件数 2,694 件（中央競馬 1,929 件、地方競馬 765 件）

陽性件数 2 件

##### (3) 競技外検査

検査件数 5,726 件（中央競馬 5,357 件、地方競馬 369 件）

陽性件数 0 件

## 2) 飼料等の薬物検査

検査件数 1,011 件

陽性件数 22 件

依頼者	区分			計
	カテゴリーA	カテゴリーB	イプラトロピウム	
日本中央競馬会	25	0	25	50
岩手県競馬組合等	38	0	1	39
飼料業者等	347	288	287	922
計	410	288	313	1,011

注) カテゴリーA：イプラトロピウムを除く全ての禁止薬物

カテゴリーB：禁止薬物のうち自然界に存在するもの

## 3) セール上場馬の薬物検査

検査件数 317 件 (日高軽種馬農業協同組合 251 件、  
千葉県両総馬匹農業協同組合 66 件)

陽性件数 0 件

## 4) 騎手の薬物検査

検査件数 96 件 (中央競馬 32 件、地方競馬 64 件)

陽性件数 0 件

## 5) 馬術競技馬の薬物検査

検査件数 35 件 (日本馬術連盟)

陽性件数 0 件

## 6) その他の薬物検査

### (1) 国際交流競走出走予定馬の薬物検査

検査件数 21 件 (日本中央競馬会)

陽性件数 1 件

### (2) 能力検査出走馬の薬物検査

検査件数 7 件 (帯広市)

陽性件数 0 件

(3) 禁止薬物陽性に関連した検査

検査件数 1,992 件 (地方競馬主催者)

陽性件数 3 件

(4) 育成馬のアナボリックステロイド検査

検査件数 75 件 (日本中央競馬会)

陽性件数 0 件

(5) アナボリックステロイドの自主検査

検査件数 10 件 (日本調教師会他)

陽性件数 0 件

(6) その他の薬物検査

検査件数 10 件 (日本中央競馬会他)

陽性件数 0 件

7) 薬物検査法審議委員会

(1) 委員

氏名	職名等	備考
尾崎 博	岡山理科大学獣医学部教授	
川原 貴	日本スポーツ協会アンチ・ドーピング委員会委員	
興石 一郎	群馬大学大学院保健学研究科教授	
下田 実	東京農工大学名誉教授	
豊島 聡	日本薬剤師研修センター理事長	
本間 浩	北里大学副学長・薬学部教授	4月1日就任
吉田 武美	薬剤師認定制度認証機構代表理事	
今井 一洋	武蔵野大学薬学部客員教授	3月31日退任

任期：平成30年4月1日～2020年3月31日

(2) 委員会の開催

薬物検査法審議委員会を開催し、各事項について報告した。

第 54 回薬物検査法審議委員会 2月2日（書面による報告）

（報告事項）

競走馬薬物検査の方法及び判定基準の一部改正について

禁止薬物

尿を検査材料とする薬物検査の方法及び判定基準

「V β受容体刺激薬及び遮断薬の検査法及び判定基準(MU-8)」

「VII アセプロマジン、キシラジン、デクスメドミジン、デトミジン、  
プロピオニルプロマジン、メドミジン及びロミフィジンの検査法及  
び判定基準 (MU-10) 」

規制薬物

「I 糖質コルチコイドの検査法及び判定基準 (MUC-1) 」

「II 非ステロイド性抗炎症薬の検査法及び判定基準 (MUC-2) 」

第 55 回薬物検査法審議委員会 10月23日

（報告事項）

競走馬薬物検査の方法及び判定基準の一部改正について

禁止薬物

尿を検査材料とする薬物検査の方法及び判定基準

「I 塩基性薬物及び中・酸性薬物の検査法及び判定基準 (MU-7)」

「III エタノールの検査法及び判定基準 (MU-4)」

「V β受容体刺激薬及び遮断薬の検査法及び判定基準(MU-8)」

血液を検査材料とする薬物検査の方法及び判定基準

「I 塩基性薬物及び酸性薬物の検査法及び判定基準 (MP-3) 」の一部改正  
について

8) 公認競馬化学者協会 (AORC) 主催の技能試験への参加

AORC が各国の競走馬の薬物検査機関に対して毎年提供する技能試験に参加し、正答率  
100%の成績を収めた。

9) 競馬分析化学者及び競馬獣医師の国際会議 (ICRAV) 等への参加

3月3日から3月10日まで、アラブ首長国連邦ドバイ市で開催された第22回 ICRAV  
に職員等2名が参加し、ICRAV 総会、AORC 総会等の会議に出席し、海外における薬物規  
制の動向や最新の検査技術などに関する情報収集と意見交換をするとともに研究成果を  
発表した。

## 10) 品質保証に関する活動

### (1) マネジメントシステムの見直し

29年に改定が行われたISO/IEC 17025の新たな規格要求事項に対応するため、競走馬薬物検査に関するマネジメントシステムの見直しを行った。

### (2) 内部監査及びマネジメントレビューの実施

ISO/IEC 17025の規格要求事項に則って、競走馬薬物検査業務の内部監査を実施するとともに、マネジメントレビューを開催した。また、品質保証活動に関する業務記録については、すべて検証のうえ、保管した。

### (3) 認定範囲の拡大

「薬物検査体制の国際標準化事業」において開発した検査法について、ISO/IEC 17025の認定範囲とするため、日本適合性認定協会に申請を行った。

## 2 DNA型検査事業

### 1) 軽種馬の親子判定及び個体識別検査

#### (1) 親子判定検査

検査件数	7,170件	(ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)
親子関係否定例	0件	

#### (2) 個体識別検査

検査件数	413件	(ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)
------	------	--------------------------

### 2) 軽種馬の毛色の遺伝子検査

検査件数	848件	(ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)
------	------	--------------------------

### 3) 馬の新生子黄疸予防のための血液検査

検査件数	86件	(日本軽種馬協会)
------	-----	-----------

#### 4) その他の検査

##### (1) 軽種馬以外の DNA 型検査

検査件数 79 件 (日本馬事協会)

##### (2) 軽種馬以外の毛色の遺伝子検査

検査件数 6 件 (日本馬事協会)

##### (3) ホースコンパリソンテスト再テスト用サンプルの DNA 型検査

検査件数 10 件 (ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)

##### (4) ユニバーサルドナー選定のための検査

検査件数 14 件 (馬生産者他)

##### (5) 性染色体の検査

検査件数 1 件 (馬生産者)

##### (6) 競走馬の個体識別のための DNA 型検査

検査件数 2 件 (岩手県競馬組合)

### 3 研究事業

#### 1) 日本中央競馬会からの委託研究

##### (1) 治療薬物の休薬期間の設定に関する研究-2

近年は競馬の国際化の進展に伴い、薬物規制の国際ハーモナイゼーションが求められており、特定の治療薬に対してはスクリーニングリミット (SL) に基づく薬物検査の導入が進められている。本研究では、国内で使用される馬の治療薬を対象として SL に基づいた検出時間 (DT) を決定する。

30 年度は、ケトプロフェン(筋肉内投与)、フルニキシム(静脈内投与)及びベタメタゾンリン酸エステル(鼻腔内噴霧)について、アジア競馬連盟薬物規制委員会の指針に従って馬への投与実験を行い、経時的に採取した血液及び尿中の薬物とその代謝物の



濃度を定量してDTを決定した。

(30年度から3年計画)

## (2) 馬におけるニコチン投与後の代謝物に関する研究

薬物陽性事案の原因究明には、当該薬物の馬における薬物動態学的データが重要な情報となることがある。

本研究では、ここ数年で複数回の事案が認められた禁止薬物のニコチンについて、馬への投与実験を実施し、経時的に採取した血液及び尿中のニコチンとその代謝物を探索して、馬におけるニコチンの代謝に関する基礎データを収集した。

(1年計画)

## (3) 競走馬における薬物の使用実態に関する調査・研究-2

新たに規制対象とする薬物の検討及び治療薬の適正使用の徹底を図る上で、薬物の使用実態に関する情報を得ることは重要である。本研究においては、レース後に採取された血液及び尿、重篤な疾患を発症した競走馬から採取された血液を対象に、広範な薬物の使用実態を調査する。

30年度は、ガスクロマトグラフィー/質量分析法及び液体クロマトグラフィー/高分解能質量分析法を組み合わせたブロードスクリーニング法を主体に、日本中央競馬会から指定された薬物や海外において陽性報告があった薬物を中心に使用実態の調査を実施した。

(29年度から3年計画)

## (4) 競走馬の呼吸器疾患における遺伝学的調査・研究

本研究は、日本中央競馬会に在籍する競走馬を対象とし、競走馬の喘鳴症における遺伝的要因の関与を統計遺伝学的な手法により調査するとともに、分子遺伝学的手法により関連するゲノム領域を特定する。

30年度は、喘鳴症の原因となる遺伝子を特定するため、喘鳴症発症馬及び非発症馬のゲノムワイド関連解析及び発症馬の全ゲノム解読を実施し、関連遺伝子領域の検討を行った。また、体重が喘鳴症に関連する疫学調査の成績を遺伝学的に検証することを目的に、体重に影響を及ぼす遺伝子を同定するゲノムワイドQTL(量的遺伝子座位)解析を実施し、4座位の遺伝子を同定した。

(29年度から3年計画)

## 2) 委託研究成績の報告

平成29年度日本中央競馬会委託研究の成績を報告書に取りまとめ、7月5日に日本中央競馬会競走馬総合研究所において報告会を開催した。

## 4 一般化学分析事業

### 1) 馬伝染性子宮炎の検査

検査件数 2,013 件 (日高家畜衛生防疫推進協議会他)

陽性件数 0 件

区 分	検査件数
馬伝染性子宮炎侵入防止事業	1,196 件
馬伝染性子宮炎蔓延防止事業	271 件
その他 (上記事業以外)	546 件

### 2) 競走馬の遺伝子検査

#### (1) スピード遺伝子検査

検査件数 98 件 (馬主他)

#### (2) 体高遺伝子検査

検査件数 95 件 (馬主他)

### 3) その他

#### (1) 木曾馬種の保存事業における受託研究

受託件数 1 件 (木曾町)

#### (2) ウマ血漿中のレミフェンタニル濃度測定

受託件数 1 件 (日本中央競馬会)

#### (3) ウシ生体試料中のガミスロマイシン濃度測定

受託件数 1 件 (鹿児島大学)

#### (4) 海外輸出馬の薬物検査

検査件数 2 件 (日本軽種馬協会他)

#### 4) 広報活動

競走馬の遺伝子検査の普及のために、JRA ブリーズアップセール（4月24日中山競馬場）及びセレクトセール（7月9日～10日ノーザンホースパーク）においてブースを設置し、馬主、馬生産者、調教師等に対する説明やパンフレット配布等の広報活動を実施した。

### 5 薬物検査体制の国際標準化事業

本事業は、IFHA 及び FEI による薬物検査機関の指定取得を目的として、IFHA が定義する広範な禁止薬物の検査が可能な検査法を確立するために、日本中央競馬会の助成により 27 年から 4 年計画で実施した。

#### 1) 高感度分析機器の導入

検査法の開発に必要な分析機器等を導入した。

名 称	数 量
液体クロマトグラフ高分解能質量分析計	1 台
液体クロマトグラフタンデム質量分析計	2 台
液体クロマトグラフ	1 台
電子天秤	1 台
自動固相抽出装置	2 台
マルチアナライザー	1 台

#### 2) 薬物検査法の確立

最終年度となる 30 年度は、馬の尿、血液及び被毛を検査材料とし、これまで取り組んできた広範囲な薬物及び物質に対する検査技術の開発及び妥当性確認試験を完了し、ISO/IEC 17025 に準拠した薬物検査法を確立した。

また、第 22 回 ICRAV に職員 3 名が参加し、ICRAV 総会、AORC 総会等の会議に出席し、海外における薬物規制の動向や最新の検査技術などに関する情報収集と意見交換をするとともに研究成果を発表した。

#### 3) IFHA 及び FEI の薬物検査機関の指定のための申請

本事業において研究開発した薬物検査法及び FEI ラボ申請に関するアドバイスを受ける

ことを目的として、5月21日から5月27日にかけて、カルフォルニア大学デービス校スコット・スタンレー教授を招聘した。

30年度は、最新の分析技術を応用した薬物検査法を確立し、国際標準を満たす薬物検査機関としてIFHA及びFEIから指定を受けるため、FEIに対しては6月に申請を行い、11月に現地審査を受審し、IFHAに対しては申請のための準備を進めた。

## 6 競走馬の遺伝子ドーピング及び遺伝的健全性対策事業

本事業は、競走馬に対する不正な遺伝子操作を規制する取組みを推進させることを目的として、日本中央競馬会の助成により29年から3年計画で、遺伝子ドーピング及び遺伝子改変（遺伝的健全性の損失）の痕跡を検出するための分析法を研究開発する。

30年度は、遺伝子ドーピングの使用が想定される遺伝子及びベクター<sup>※1</sup>の定量分析法及び複数の遺伝子を一斉検出する定性分析法を検討した。また、ミニブタへのGFP遺伝子<sup>※2</sup>及びエリスロポエチン遺伝子の投与実験で得られた血液サンプルを用い、投与した遺伝子の検出試験を行った。さらに、エリスロポエチン遺伝子のウマへの投与実験を実施した。一方、遺伝子改変の痕跡を検出するために、全ゲノム解析法による競走馬のDNA多型のデータベース構築を進めると共に、遺伝的多型を効率的に検出するゲノム配列データ分析システムの開発を実施している。

また、下表に示す国際会議に職員が参加すると共に、事業に関連した海外の研究機関を訪問して、海外の遺伝子ドーピング及び遺伝子改変に関する動向や最新の分析技術及び開発手法について情報収集と意見交換を行った。

※1 ベクター：外来遺伝子を細胞内に導入するために用いられる物質のことで、主にウイルスやプラスミドが使用される。

※2 GFP遺伝子：緑色蛍光タンパク質を合成する遺伝子で、細胞内の遺伝子導入を容易に確認できる。

期 間	場 所	会 議 名	員数 (名)
3月3日～3月10日	アラブ首長国連邦	第22回 ICRAV	1
5月13日～5月18日	大韓民国	第37回アジア競馬会議	1
10月4日～10月8日	フランス共和国	IFHA 年次総会 ISBC 及び IFHA 遺伝子ドーピング合同 会議	1
12月5日～12月9日	中華人民共和国 香港特別行政区	IFHA 遺伝子ドーピング規制小委員会	1

## 7 事業成果の発表等

研究成果の一部については、学会発表、論文報告を行った。また、事業活動の一環として、技術指導、講師派遣、見学受入れを実施した。

### 1) 学会発表等

表 題	報告学会等
Transformation of atenolol into metoprolol acid in equine urine and plasma	第 22 回競馬分析化学者及び競馬獣医師の国際会議 (ICRAV)
Research for cobalt, arsenic, lithium and nickel concentrations in horse urine and plasma in Japan	//
Preliminary quantitative analysis of paracetamol, metacetamol, and orthocetamol in equine plasma using LC-electrospray ionisation-tandem MS, in Japan	//
Comparison of the pharmacokinetic properties of two dexamethasone esters in horses	//
Potential methods for detecting indiscriminate genetic manipulation in thoroughbreds	//
Gene Doping Detection Methods: Now and the Future	第 37 回アジア競馬会議
Gene Doping Update	第 12 回ドロシー・ラッセル・ハブマイヤー基金国際ウマゲノムマッピングワークショップ
Genetic diversity and phylogenetic analyses of native Japanese horse breeds using genome-wide SNP data	//
A genome-wide association study for body weight in Japanese thoroughbred racehorses identified candidate regions near LCORL, ZFAT, and MSTN genes	//
競走馬の動き「競走能力」に影響を及ぼす因子	第 91 回日本生化学会
新規ドーピング検査法の模索	日本ウマ科学会第 31 回学術集会
獣医療分野における遺伝子治療と遺伝子ドーピング問題	第 3 回日本遺伝子細胞治療学会若手研究会セミナー

2) 論文報告等

表 題	報 告 誌
競走馬のドーピング検査	ぶんせき 2018 10, 417-420
Digital PCR detection of plasmid DNA administered to the skeletal muscle of a microminipig: a model case study for gene doping	BMC Research Notes (2018) 11:708
Detection of phosphorothioated (PS) oligonucleotides in horse plasma using a product ion (m/z 94.9362) derived from the PS moiety for doping control	BMC Research Notes (2018) 11:770
競走馬の遺伝子ドーピングおよび遺伝的健全性の毀損への対策に関する研究 (第一報)	馬の科学 (2018) Vol.55 No.2 134
遺伝子ドーピングとゲノム編集	馬の科学 (2018) Vol.55 No.3 207-213
Distribution of Y chromosomal haplotypes in Japanese native horse populations.	Journal of Equine Science (2018) 29(2), 39-42.
Evaluation of recent changes in genetic variability in Japanese thoroughbred population based on a short tandem repeat parentage panel.	Animal Science Journal (2018) <a href="https://doi.org/10.1111/asj.13143">https://doi.org/10.1111/asj.13143</a>

3) 技術指導等

月 日	依 頼 元	内 容	員数 (名)
2月5日 ～2月6日	岐阜大学 応用生物科学部	ウマの遺伝学的研究	1
2月14日 11月14日	日本大学 生物資源科学部	ウマの遺伝に関する統計解析技術	1
3月15日 ～3月16日	東京農工大学 農学部	次世代シーケンサーを使用したゲノム解析技術	4
8月6日 ～8月8日	岐阜大学 応用生物科学部	ウマの遺伝学的研究及び伝染性子宮炎検査に関する研修	1
8月29日 ～8月30日	ジャパン・スタッドブック・ インターナショナル	ウマのDNA型鑑定(親子判定及び個体識別)	1
10月11日 ～10月12日	ジャパン・スタッドブック・ インターナショナル	DNA型検査に関する基礎知識	1

4) 講師の派遣

月 日	依 頼 元	内 容	員数 (名)
1月20日 4月14日 7月7日 12月1日	昭和大学大学院 医学研究科	生体の機能解析法「遺伝医学の基礎」	1
4月16日	岐阜大学 応用生物科学部	馬臨床学「馬臨床学」	1
4月25日	東京農業大学 農学部	「競走馬の科学」～ゲノム科学と遺伝学 からサラブレッド種を考える～	1
6月27日 7月2日 10月31日	日本軽種馬協会	馬伝染性子宮炎「採材法と治療法」に 関する講習会「PCR検査について」	1
7月18日	JRA美浦トレーニング ・センター	競走馬の薬物検査及び遺伝検査につい て	2
8月10日	東北大学大学院 薬学研究科	競馬産業における遺伝子ドーピング対 策～QTOFを使用した核酸医薬の検出可 能性～	1

5) 見学者の受入れ等

月 日	見学者等	内 容	員数 (名)
2月1日	日本中央競馬会 監事	所内見学	1
2月15日	地方競馬全国協会地方競馬教養センター 調教講習生	所内見学・講習	8
2月21日	日本分析センター 業務執行理事他	所内見学	2
3月7日	地方競馬全国協会地方競馬教養センター 騎手候補生	所内見学・講習	9
3月22日	日本中央競馬会 馬事部 馬事部長補佐他	所内見学	5
4月4日	日本中央競馬会 馬事部長他	〃	2
4月9日	日本装蹄協会 装蹄教育センター 装蹄師認定講習会講習生	所内見学・講習	19
4月13日	東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授	所内見学	1
4月16日	日本中央競馬会 審判部 公正課長他	〃	4
4月18日	地方競馬全国協会 新規採用職員	所内見学・講習	4

5月10日	日本中央競馬会 総合企画部 関連事業室長	所内見学	1
5月16日	日本中央競馬会 競馬学校 厩務員課程生	所内見学・講習	28
6月12日	日本中央競馬会他 新規採用獣医職員	〃	9
6月21日	日本中央競馬会 総括監	所内見学	1
7月23日	地方競馬全国協会 公正部長他	〃	4
9月6日	地方競馬全国協会地方競馬教養センター 調教講習生	所内見学・講習	6
11月9日	日本分析センター 業務執行理事他	所内見学	4
11月21日	日本中央競馬会 競馬学校 厩務員課程生	所内見学・講習	32
12月11日	地方競馬全国協会 理事	所内見学	1
12月20日	地方競馬全国協会地方競馬教養センター 調教講習生	所内見学・講習	3



### Ⅲ 総務関係

#### 1 評議員及び評議員会

##### (1) 評議員

氏名	職名等	備考
生野 等	地方競馬全国協会 理事	11月29日就任
岩元 正文	ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 理事	
木所 康夫	日本中央競馬会 常務理事	
木村 一人	日本中央競馬会 理事	
釘田 博文	国際獣疫事務局 アジア太平洋地域代表	
鈴木 邦則	全国公営競馬主催者協議会 常任理事	
田原 文夫	すかいらく 社外取締役	
留守 悟		10月31日辞任

任期：平成30事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

##### (2) 評議員会の開催

評議員会を次のとおり開催した。

第1回評議員会 3月16日

(決議事項)

議案 平成29年度事業報告及び決算について

第2回評議員会 5月28日（書面による決議の省略）

(みなし決議事項)

第1号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所役員及び評議員の報酬等の支給に関する規程の一部改正について

第2号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所役員慰労金支給規程の一部改正について

第3号議案 役員報酬の額を定める件

第3回評議員会 11月22日（書面による決議の省略）

(みなし決議事項)

議案 評議員の選任について

第4回評議員会 12月6日

(決議事項)

第1号議案 2019年度事業計画及び収支予算について

第2号議案 規約たる規程の一部改正について

## 2 役員及び理事会

### (1) 役員

役職名	氏名	経歴等	備考
理事長 (常勤)	安齊 了	日本中央競馬会 監事	
常務理事 (常勤)	黒澤 雅彦	競走馬理化学研究所研究部長	
	岩崎 幸治	地方競馬全国協会 理事	
理事 (非常勤)	兼丸 卓美	日本中央競馬会競走馬総合研究所 技術参事役	
監事 (非常勤)	谷口 稔明	全国家畜畜産物衛生指導協会 参与	
	佐藤 信博	日本中央競馬会 馬事部上席調査役	

任期：平成30事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

### (2) 理事会の開催

理事会を次のとおり開催した。

#### 第1回理事会 2月26日

(決議事項)

第1号議案 平成29年度事業報告及び決算について

第2号議案 平成30年度第1回評議員会の招集について

第3号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所会計規程の一部改正について

第4号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程の一部改正について

第5号議案 参与及び嘱託に関する規程の一部改正について

第6号議案 競走馬薬物検査の方法及び判定基準の一部改正について

第7号議案 薬物検査法審議委員会委員の改選について

第8号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員退職手当支給規程第7条に規定する退職手当の支給について

(報告事項)

1. 平成 30 年度第 1 回財産運用検討会の審議結果
2. 平成 29 年度収支予算の流用結果

第 2 回理事会 5 月 14 日 (書面による決議の省略)

(みなし決議事項)

- 第 1 号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所役員及び評議員の報酬等の支給に関する規程の一部改正について
- 第 2 号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所役員慰労金支給規程の一部改正について
- 第 3 号議案 役員の報酬の額を定める件
- 第 4 号議案 評議員会の決議の目的である事項の提案について

第 3 回理事会 6 月 29 日

(決議事項)

- 第 1 号議案 役員手当の改定について
- 第 2 号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所会計規程の一部改正について
- 第 3 号議案 会計事務細則の一部改正について
- 第 4 号議案 職員給与規程実施基準の一部改正について

(報告事項)

理事の職務の執行状況

第 4 回理事会 11 月 13 日 (書面による決議の省略)

(みなし決議事項)

- 第 1 号議案 評議員候補者の選定について
- 第 2 号議案 評議員会の決議の目的である事項の提案について

第 5 回理事会 11 月 26 日

(決議事項)

- 第 1 号議案 2019 年度事業計画及び収支予算について
- 第 2 号議案 規約たる規程の一部改正について
- 第 3 号議案 平成 30 年度第 4 回評議員会の招集について
- 第 4 号議案 理事長達たる規程の制定及び改廃について
- 第 5 号議案 競走馬薬物検査の方法及び判定基準の一部改正について
- 第 6 号議案 2019 年度競走馬理化学研究所における競走馬の遺伝子ドーピング及び遺伝的健全性対策事業実施要領の制定について

第7号議案 2019年度競走馬理化学研究所における新薬物検査体制の確立事業実施要領の制定について

(報告事項)

1. 理事の職務の執行状況
2. 平成30年度第2回財産運用検討会の審議結果

### 3 人事異動

- |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|
| 1) | 職員 | 採用 | 2名 | 退職 | 3名 |
| 2) | 嘱託 | 採用 | 5名 | 退職 | 3名 |

役職員等の状況

区 分		1月1日現在	12月31日現在
役員	理事	4 (1)	4 (1)
	監事	2 (2)	2 (2)
参 与		1	1
職員	総務部	4	6
	薬物分析部	21	18
	遺伝子分析部	6	6
	品質保証室	1	1
	小 計	32	31
嘱託	総務部	3	1
	薬物分析部	8	10
	品質保証室	1	3
	小 計	12	14
合 計		51 (3)	52 (3)

括弧内は、非常勤の人数で、内数である。

### 4 附属明細書の省略

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はないため、省略した。

